

こども宅食プロジェクト 2017年度活動報告



こども宅食 キックオフ記者会見

とどく、つながる、みらいのために

2017年7月にこども宅食のキックオフの記者会見を開催してから、まもなく1年が経とうとしています。

立ち上げ当初はうまくいかないことが当たり前で、そもそも何をやっていいのかもわからない。その中で、どうしたらできるのか、何が必要なのかを考えてひたすら動く。団体間の連携も決してスムーズとは言えない中で、それぞれの団体が必死になって業務に取り組む姿は「行政、NPO、財団と背景の異なる団体が連携してこどもの貧困問題に立ち向かう」という理念の美しさとは裏腹に、地味で、泥臭いものでした。

試行錯誤を重ねて困難を乗り越え、なんとか昨年の10月に第1回の配送を開始、それからは2ヶ月に1回のペースで、ご家庭に食品をお届けしています。ご利用いただいたご家庭からは本当に多くの喜びの声を頂くことができ、心からやってよかったと感じています。また、ご家庭の生活上の困りごとを伺い支援につなげていく、という取り組みも少しずつですが始めています。各家庭が抱えている課題は多様で、根が深いものも多く、簡単に解決するようなものではありませんが、少しでも何かできることを見つけ、力になれるようになっていきたいと思っています。

また、こども宅食が多くの方々に助けられて実現することができた事業であることを、ふるさと納税を通じた寄付や広報、ボランティアなどを通じて、様々な場面で感じることの多い1年間でした。「こどもの貧困をなんとかしたいと感じている人が、この社会に少なくない数存在している」という事実が、われわれも、そして利用家庭の方々にとっても励みになったのだと思っています。

事業としてはまだまだ課題が多く、仕組みとして未完成な部分も多々あります。やりたいことが十分にできているとはいえないのが現状です。利用家庭のみなさまのために、そして社会を変えていくために、今年度は昨年度以上に積極的、精力的に本事業に取り組んで参ります。

こども宅食の利用世帯

150 世帯

2017年度の配送回数

3 回

食品を寄付して頂いた企業

15 社以上

1回あたり宅配量

8 kg以上

1回あたり食品の品目数

20 品目以上

2017年度の活動のまとめ

配送ボランティア人数(のべ人数)

91 人

ふるさと納税で頂いた活動資金

8,225 万円

寄付人数

2,343 人

利用家庭へのアンケートで
「DVがある」と回答した家庭

7 件

※ 寄付金総額、寄付者人数は4月20日現在の確定値

2017年度の活動スケジュール

2017



4月 — こども宅食コンソーシアム発足



7月 — 記者会見 (キックオフ、ふるさと納税による活動資金募集開始)



10月 — 第1回配送(150世帯)
第1回アンケート実施(実態把握、社会的インパクト評価)



12月 — 第2回配送(150世帯)

2018



2月 — 第3回配送(150世帯)



3月 — 第2回アンケート実施(実態把握、社会的インパクト評価)

6団体からなる「こども宅食コンソーシアム」を発足し、互いの強みを活かすことで、食品を配送するための体制を構築しました。

配送する食品等のロジスティックスと配送計画

宅食事業利用世帯に関する配送情報の管理

食品等の保管、梱包及び配送業務

宅食事業利用世帯の見守り活動

KIDS' DOOR
NPO法人 キッズドア



食品等の提供企業等の
開拓、交渉等業務



事業に対する寄附金受付・管理業務
事業対象者に対する宅食事業の案内業務
配送情報の管理
見守り活動に対する技術的支援



Florence

事業全般の推進
寄附広報及び事業PR業務
希望世帯からの申込及び相談受付
並びに履歴管理



村上財団

The Murakami Family Foundation

個人寄附等ファンドレイジング



日本ファンドレイジング協会

社会的インパクト評価業務

子どもの貧困や食品寄付の専門家の方々にご協力を依頼し、
アドバイザーとして参画し、様々なご助言を頂くことができました。



赤石 千衣子

NPO法人しんぐるまざあず・
ふぉーらむ 理事長



井出 留美

株式会社office3.11
代表取締役



大西 健丞

NPO法人ピースウィンズ・
ジャパン 代表理事



大西 連

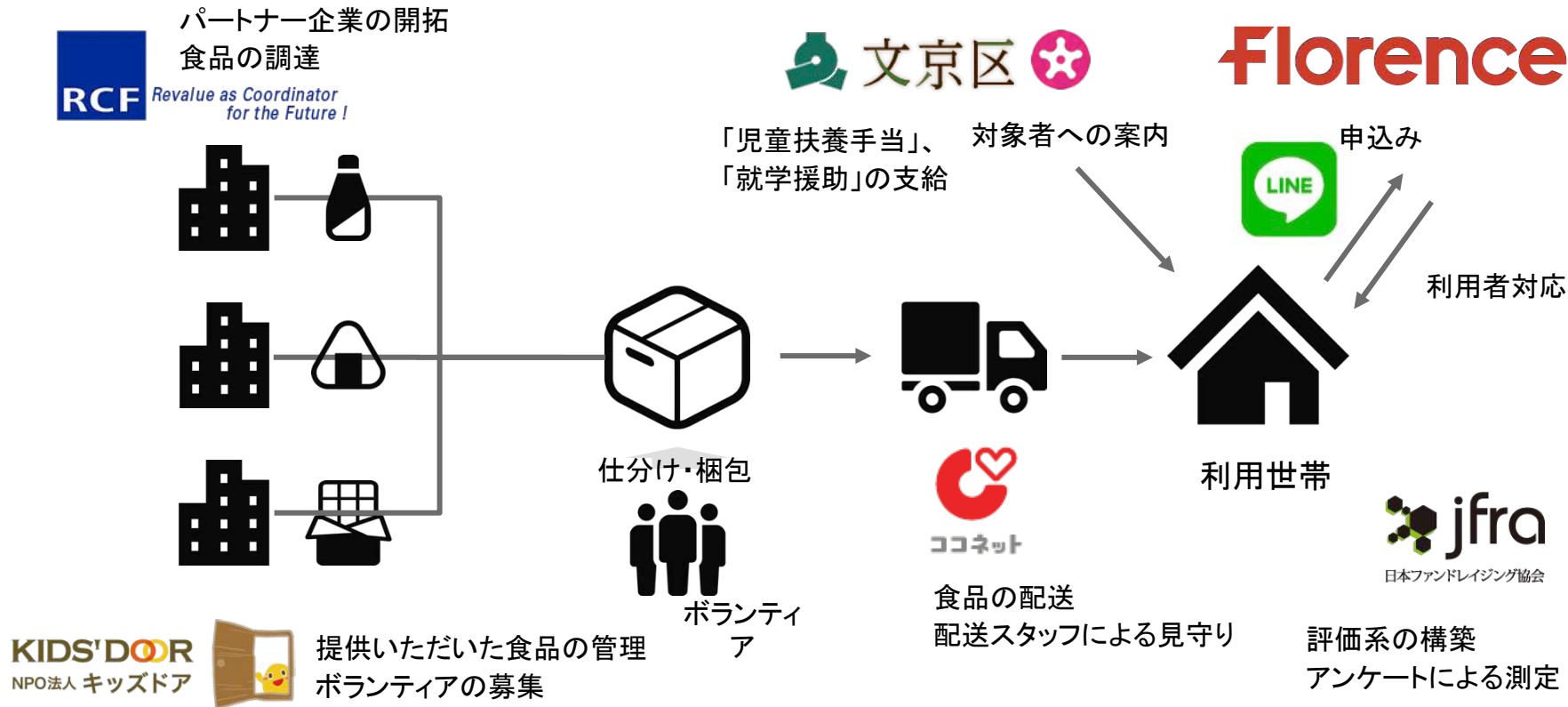
NPO法人自立生活サポート
センターもやい 理事長



阿部 彩

首都大学東京教授

こども宅食の利用世帯へ食品を配送をするまでの流れ



食品・飲料メーカー等15社・団体から継続的にご支援を頂き、 主食・加工食品・飲料・菓子等約20品目を集めることができました。



※一部コンソーシアムで購入した製品も含まれます



アルファフーズ株式会社



キリン株式会社



株式会社エム・シー・フーズ



セイノホールディングス株式
会社



認定NPO法人フードバンク山梨



NPO法人おてらおやつクラブ



新公益連盟



公益財団法人日本サッカー協会



株式会社 不二家



三菱食品株式会社



ロート製薬株式会社



株式会社永谷園ホールディング
ス



株式会社ロッテ



ニチパン株式会社

(一部掲載、順不同)

ボランティアの方々、運送会社であるココネット株式会社様にご協力頂き、集めた食品を梱包し、利用家庭に配送いたしました。



参加したボランティアの方からは、「こども宅食を利用している家庭から、こども宅食の存在を教えてもらいました。何か力になりたいと思って参加しました。『このような形で間接的にボランティアできるのが嬉しいです』『子どもが喜ぶ顔が思い浮かぶようでした！』といったコメントを頂きました！

利用家庭の方からは喜びの声を頂きました！

約一年の別居を経て、先月よりひとり親家庭となりました。二人の子どもを抱え、十年振りの復職に、不安が募る日々でしたが、都会の真ん中でもこういった取り組みが行われているということに、心強さを感じる事が出来ました。

クリスマスプレゼントのお菓子やカニの缶詰めなど年末気分が高まってワクワクしました！クリスマスカードもとても可愛らしくて嬉しかったです。配達の方が「何かお困りの事はありませんか？」と聞いてくださり、気にかけてくださる方々がいると思うと、とても心強く嬉しい気持ちになりました。

こども宅食のお知らせを見た時、思わず涙が出ました。日々節約を重ねていますが、食べ盛りの子どもの胃袋を満たすためには、どうしても食費は削れません。子どもが成長するにつれて、食費は膨らんでいきます。しかし、児童扶養手当は一定で、どんどん家計は厳しくなる一方なので、このような支援はとてもありがたいです。周りの方々の助けがあって頑張れています。子どもを一生懸命勉学に励ませ、社会に恩返しできるように頑張ります。

コンソーシアムではこどもの貧困やこども宅食について、積極的に広報活動を行い、2017年度は85のメディアに取り上げて頂きました。



最終的には、**2,343名**のみなさまから、
目標金額の2,000万円をはるかに超える、
8,225万円の寄付を集めることができました。

こども宅食の取り組みによって、同じ文京区就労支援の分野へも支援の輪を広げることができました。



昨年2月の配送では、配送する食品の一つとしてレーズンをお届けしました。

このレーズンはご寄付いただいたエム・シー・フーズ株式会社（以下、MCF株式会社）が、文京区内にある障害がある方の就労支援施設であるふる里学舎本郷に、レーズンの袋詰め作業を委託することで、こども宅食の食品寄付と配送のプロセスが就労訓練につながる、という循環を生み出すことができました。

また、「障害がある」という理由だけで、いつも守られる立場に置かれるのではなく、誰かの役に立てる、という実感を得てほしい」、というふる里学舎のみなさんの思いを実現することにも繋がりました。

文京区内の多くの方の思いをつなげ、支援の輪を広げられたことも成果の一つだと考えています。

一方で、アンケートの結果から、これまで見えていなかった、 利用家庭が直面している生活課題の実情が明らかになりました。

ひとり親世帯(79)

母子なので私が病気になったら子どもはどうなるのか。

今の仕事の契約が切れたら**子供が小さくても働ける仕事が見つかるか。**

教育費や固定費以外で節約できるのは自分(親)にかけられるお金かな、と思い、

夕食は子どもの分だけ作ったりしている。

三世代同居世帯(29)

今はまだ自分も健康なのですが、両親が近くにいて子育ての助けもしてくれていますが、

年もとっているのでこれからの子育てと介護が同時に来ることを考えると、少し不安があります。

多子世帯(24)

現在、社宅に住んでいますが、とても古く、狭いため子どもたちが大きくなったときどうしたらいいのか。

古い家の為、子ども達にアレルギー発症があり心配。**でもお金が無いので引越せない。**

病気病歴世帯(16)

うつ病で治療中。

フリーのライターとして働いているが、仕事を思うようにこなせない為、収入に不安がある

持病が3～4つ。体力がないため週3日勤務のみ。都営住宅に5年申し込んでいるが当選せず

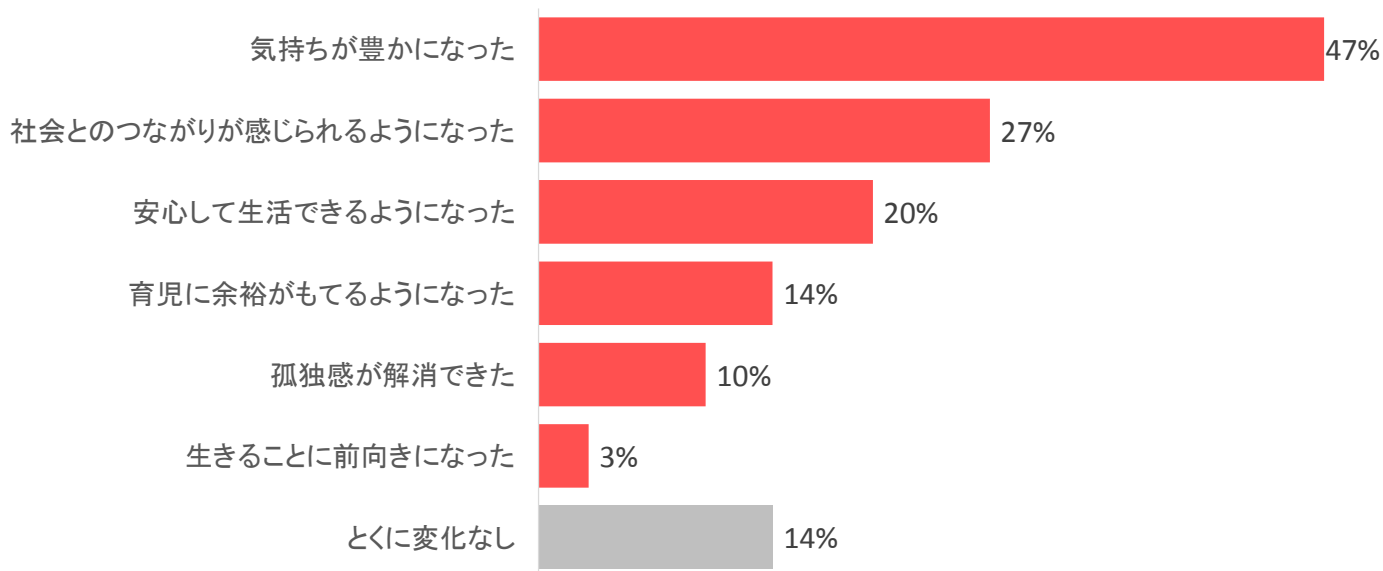
食品の宅配によって、平均で月約3,700円の節約となりました。
金額は多くはありませんが、生活への影響は大きいものでした。

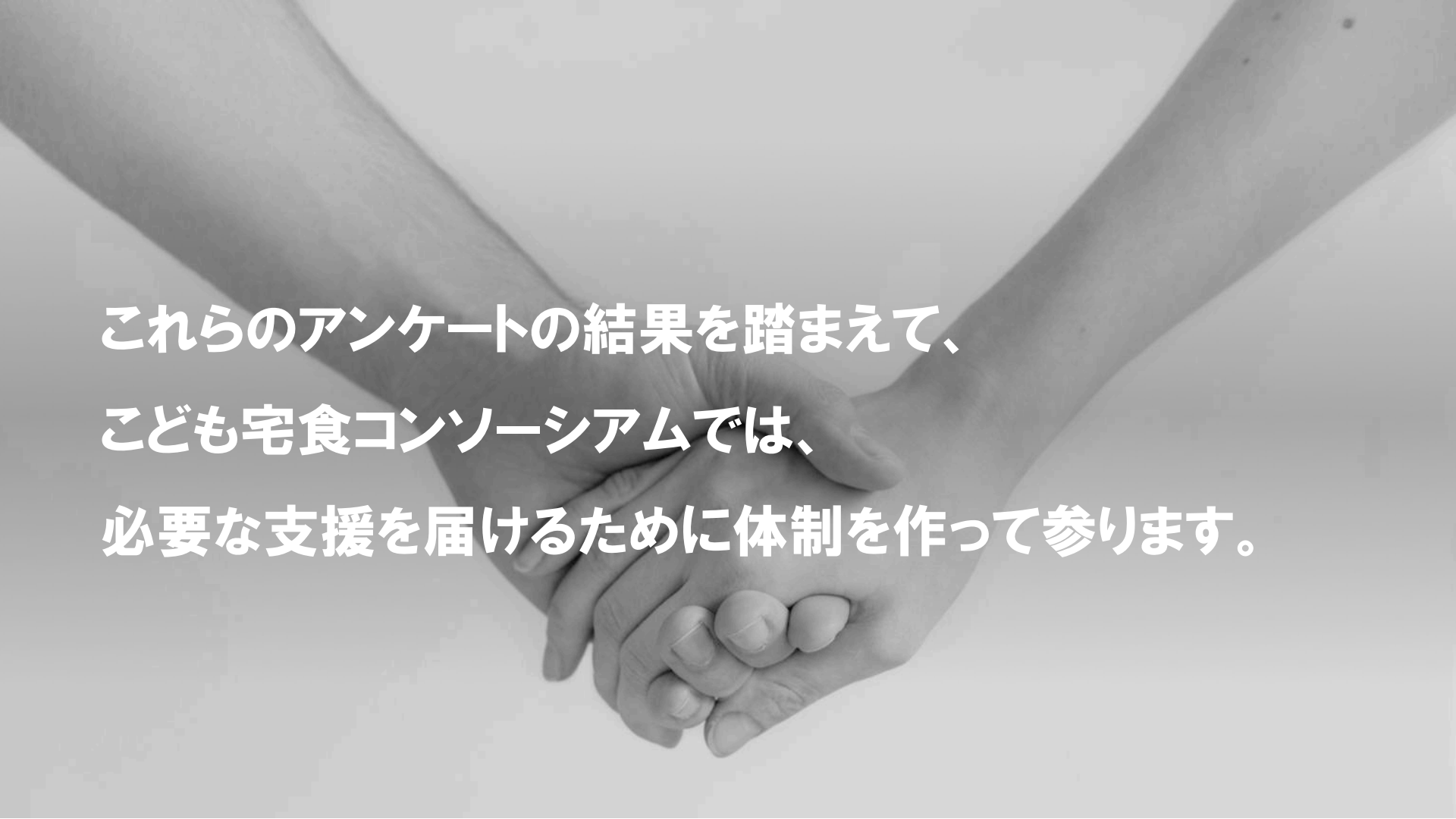
こども宅食の利用によってできるようになったこと

- おやつや夕食を我慢させることが以前はあったが、今は少しだけできるようになった。
- 親と子で靴や服を共有していたが、サイズに合うものを購入した。
(上履きなど小さいものをはいていた)
- 柄のかわいいノートや、流行の服を購入して笑顔が増え、学習意欲が増した。
- いつも支払がぎりぎりなので、たすかりました。
- 高校受験の年だったので塾の冬期講習に申し込んだ。
- 出かけられるようになりました。笑顔が増えました。

アンケートによって、利用家庭の方々が、配送を通じて、 安心感、充足感を感じていることもわかりました。

こども宅食の支援を受ける前と比較して、あなたの気持ちの変化はありましたか。(複数選択)



A grayscale photograph showing two hands clasped together in a supportive grip. The hands are positioned centrally, with fingers interlaced. The background is a soft, out-of-focus light gray. Overlaid on the image is white Japanese text.

これらのアンケートの結果を踏まえて、
こども宅食コンソーシアムでは、
必要な支援を届けるために体制を作って参ります。



2018年度の活動について

宅配提供数を600世帯まで増やします。

2017年度の配送数150世帯に対し、2018年度は、新規申込を含め、最大で600世帯への配送を目指します。提供数増に伴い、運営体制の強化、効率化も進めて参ります。

生活困難やリスクを発見する仕組みを作ります。

利用家庭の生活実態を把握し、生活困難や様々なリスクを発見することで、状況が悪化するのを防ぐ／支援によって改善することを目指します。

発見したリスクへの対応、連携体制を強化します。

発見したリスクについて、関係各所と連携を取りながら対応を強化し、利用家庭の支援につなげていきます。



2018年度は運営資金として3,800万円を募っています。
引き続き、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

こども宅食では、活動費の一部について日本財団様の助成を受けております。

